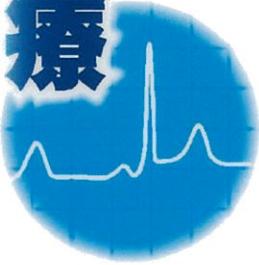


最前线

医療



▶116

五省会西能病院⑤ 副病院長 信清 正典さん (49)



腰部脊柱管狭窄症について
話す信清副病院長
=富山市の西能病院

のぶきよ・まさのり 富山市出身 看護医大医学部を卒業後、富山医
薬大、飯山赤十字病院などを経て2007年から西能病院に勤務。
から現職。

腰部脊柱管は曲がると広く
背骨が老化で変形

スーパーでカートやつえを使わず、腰を曲げずに背筋を伸ばし、歩いて1周することができるだろうか。西能病院の信清正典副病院長は「これができるかない人は腰部脊柱管狭窄症の可能性があります」と注意を促す。

腰の痛み早い対処を

自転車に乗るときは問題がない場合が多い。歩くときも、カートやつえを使って、腰を曲げた状態ならば楽になる。歩いていると痛みやしびれが強くなり、休むと楽になつてまた歩けるようになる「間欠跛行」と呼ばれる症状もある。「曲げたり、休んだりすれば大丈夫だと病気をほつてなる。

悪化していきます」と説明する。腰部脊柱管狭窄症は、高齢者が老化することで変形し、脊柱管が細くなる病気だ。脊柱管は、血管や神経の束が通る場所で、狭くなると神経が圧迫されて痛みを感じるようになる。

ことから、誰でもかかる可能性がある。これといった予防策もなく、早期の対策が重要になってくる。

チェックには、スーパーをいほどダメージが蓄積され、早いうちなら投薬やリハビリで治療できるが、最終的には手術が必要になる。神経は一度傷ついた回復に時間がかかるため、「どんな病気でもですが、早期の治療が重要です」と強調する。

腰部脊柱管狭窄症は、高齢による骨の変形が原因である

ことから、誰でもかかる可能性がある。これといった予防策もなく、早期の対策が重要になってくる。

3人が西能病院に常勤する。西能病院では一日に30人前後が受診する疾患であり、年間約300件行っている腰の手術のうち、6割は腰部脊柱管狭窄症だという。

高齢化が進む中、健康を維持するには歩けることが重要だ。信清副病院長は「腰を痛めると何もできなくなる。健康寿命を維持するためにも、大切にしてほしい」と願う。



富山新聞

2018年(平成30年)5月30日(水曜日)掲載